

令和6年度永山まちづくり実行委員会の事業報告及び決算

(単位：円)

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済 予 計	支 出 予 定 計 : (済+予)	済 予 計	予算残
1	地域のオタスケマン事業 (地域のオタスケマン実行委員会)	令和6年6月14日(金)、永山西小学校3年生全員に、地域のオタスケマンとして、町内会や地域のボランティア活動、地域の見守り、防犯、交通安全等について約1時間ほど講話を行った。 ・出席者は、永山第三地区市民委員会会長、防犯部長、交通部長の3名	限りある時間の中だったが、児童からたくさんの質問があり、町内会や地域ボランティアの大切さを伝えることができた。 この活動を、徐々に永山地域の他の小・中学校に広めていきたい。	10,000	済 予 計	0 0 0	0	10,000
2	旭川市立大学の屯田まつり支援事業 (旭川市立大学の屯田まつり支援実行委員会)	永山第二地区市民委員会役員会で、旭川市立大学との連携について協議し、協力を得ることができたので、事前学修、並びに舞踊パレードをスムーズに進めることができた。 ・令和6年7月18日(木)13:00~ 大学の事前学修として実施。 屯田まつりの歴史等について、葛西実行委員長(永山第三市民委員会会長)の講話のあと、永山南西地区市民委員会の塩尻さんを講師として踊りの練習を実施。 永山第二地区市民委員会の役員を中心に、屯田音頭の魅力やこれからの永山についてをテーマに学生と交流した。 ・令和6年7月28日(日) 舞踊パレード当日は市民委員会のグループと学生のグループを交互に配置して屯田音頭を披露。踊りも揃っていて良かったという評価を得た。	踊りの練習にとどまらず、グループごとの地域住民と大学生の交流などを通じ、屯田まつりの歴史の継承につながる活動ができた。 まつり当日も、活気溢れるまつりにつながる活動となった。大学側から、この取組みを通して地域と触れ合えるのが素晴らしい学修となっているとの話もあり、次年度も継続していきたい。	10,000	済 予 計	0 0 0	0	10,000
3	まちづくりニュース作成事業 (まちづくりニュース作成実行委員会)	永山まちづくり推進協議会の各実行委員会の活動をまとめた「永山まちづくり推進協議会NEWS」を発行。	市内各施設へ設置したり、まち協の活動実績を伝えるパネル展などに配置し、永山まちづくり推進協議会の活動を周知した。	50,000	済 予 計	21,543 0	21,543	28,457

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出済 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
4	永山地区子どもの学習支援事業 (永山地区子どもの学習支援実行委員会)	公民館音楽室にて毎週月曜日、午後3時から5時まで、大学生を中心とするボランティアが、自主学習を行っている児童・生徒等の見守りを行うとともに、予習・復習、宿題の支援を行った。  実施日：令和6年4月～令和7年3月	学生ボランティアによる児童、生徒の見守りを行うことができた。また、児童や生徒の学習支援を行うことは、将来教員を目指している学生ボランティアの学びにもなっている。 自習室が居場所となっている利用者もいることから、今後も継続して当該事業を実施していきたい。	30,000	済 予 計 30,000 0 30,000	0
5	スープの冷めない“きずな”づくり事業 (スープの冷めない“きずな”づくり実行委員会)	人が生きていくうえで大切な「食」を中心とした「野菜スープ」をキーワードとしている。 永山の農業関係者と地域の方との連携による健康の増進と、人とのつながりによる心の健康維持を目的とし、旭川市立大学短期大学部お料理研究サークルの学生が作った永山産の野菜を中心としたスープとおにぎりを高齢者宅に配布する。 今年度3回(6町内会)を対象にスープとおにぎりの宅配を実施した。 旭川市立大学短期大学部のお料理研究サークルの学生がメニューの作成と当日のスープ等を調理した。 旭川市立大学保健福祉科コミュニティ福祉学科の学生と、お料理研究サークルの学生がコンビになり、町内会役員やボランティアの方の協力をいただき、各個人宅へ訪問し交流を深めた。  1 実行委員会 令和6年6月18日(火)/令和6年7月23日(火) 令和6年9月19日(木)/令和6年12月18日(水) 令和7年1月8日(水)/令和7年2月25日(火)  2 実施日・実施地区・参加人数(学生含む) ①令和6年10月20日(日) 第2永山団地(112名) ②令和6年11月16日(土) 三区第二町内会(143名) ③令和7年2月8日(土) 永山むつみ町内会(115名)	今年度は3回実施した。 第2永山団地に関しては3つの町内会がある。町内会どうしのつながりができ、また町内会ごとのボランティアが自主的な活動につながっている。 2回目の永山三区第二町内会では、町内会に属さない住民への訪問も、学生と町内会役員がコンビになって訪問した。町内会長から「町内会員や非会員の世帯のことを町内会役員が知るきっかけになったので良かった」との報告を受けた。 3回目に関しては、今後アンケート等集計する予定である。  1・2回目の参加者のアンケート結果から「(事業内容)とても良い」「学生さんの訪問で癒されている」「具沢山で良かった」など講評だった。参加した学生からは、「楽しかった」「高齢者の方と話ができて勉強になった」「また参加したい」との報告を受けた。  今回初めて旭川市立大学の学生とお料理研究サークルとの連携により訪問することができた。専門が違うことでの視点の違いや、多職種と連携するメリットを知ることができたのではないかと。今後の学内連携につながるきっかけとなることも期待している。 食材の高騰による予算の確保、どのように地域に根付かせていくかなど町内会とのより良い連携、栄養改善等の評価など今後の課題である。	70,000	済 予 計 100,110 0 100,110	▲ 30,110

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
6	永山健康マイレージ事業 (永山健康マイレージ 実行委員会)	<p>過去の永山圏域栄養調査(MNA-SF)で低栄養リスクありが2～4割、オーラルフレイルチェックでハイリスク者が5割であり、住民の中には歯や低栄養が原因で転倒をくり返したり、体力低下のため活動量が低下する等生活に支障が出ている方も存在した。</p> <p>多くの高齢者が自身の低栄養やオーラルフレイルに気づいていなく、これらが進行していくことが課題であるため永山健康マイレージ事業を企画。</p> <p>9～11月にクッキング教室+口腔講話を実施し、様々な食品の品目を多く摂ることとオーラルフレイル予防について住民に周知した。</p> <p>8月中旬から医院・歯科医院、薬局、スーパー、町内会館、サークル、交流センタにマイレージチラシを配布。住民が食事と口腔ケアの取組を行い応募して、協賛企業の商品が当たる企画を実施。</p> <p>1月中旬から旭川市立大学短期大学の学生が作成した栄養レシピを、イオン永山店に設置し、積極的に摂りたい栄養の周知を行った。</p>	<p>クッキング教室+口腔講話は4回実施し、42名が参加。講師は食生活改善推進員、地域住民、旭川市立大学短期大学部、医療機関栄養士、地域歯科医療連携員に依頼。簡単で多くの食品数を摂取できるメニューを参加者と調理した。</p> <p>「料理がワンパターンになりがちなので、身体に良い料理を教えてもらえる機会がもっとあるとよい。」と好評であり、今後も開催してほしい希望があった。</p> <p>口腔講話については「オーラルフレイル予防の話聞く機会があまりないため、毎回聞きたい。」と4回すべてに参加される方もいた。</p> <p>マイレージチラシは1,400部配布。昨年と同様の約160名の応募があったが、応募条件である歯科未受診のため脱落者が30名以上おり、128名の応募となった。</p> <p>成果：昨年と比較して10食品群チェックシートの平均点が0.2点アップし、口腔体操をする方が増えた。 (R5年平均13.1日→R6年15.6日)</p> <p>取組後アンケートで、欠食の改善や口渇、むせ、噛みにくさが改善した方もおり、「口腔体操でむせが改善したため、ずっと継続している。」という声も聞かれた。</p> <p>課題：応募者の30名以上が歯科未受診で対象外となった。歯科受診を勧めて受診した方も数名いたが、受診の必要性を理解していただけない方が多いことが課題。</p> <p>BMI20以下のやせの方が約22%。やせている認識がなく、逆にもう少しやせなければと思っていた方も複数いて、自身の適正体重を知らない方が少ないことがわかった。</p> <p>やせの方のタンパク質不足が目立つ(働き盛り世代、高齢者とも)。糖尿病治療中の方の食事が課題。食品の種類選択より、適正体重以下に落とすことを目指しており、やせすぎている(多くがタンパク質不足、炭水化物過多)。</p>	70,000	済 70,000 予 0 計 70,000	0

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
7	永山南きづな・ほのぼのバザー事業 (永山南きづな・ほのぼのバザー実行委員会)	<p>障がい福祉事業所が作成したパンや木工作品等を認知症当事者や障がい者が役割を担いながら販売するバザーを開催することで、「認知症になったら、障がい者になったら何もできない!」というイメージを払拭しつつ、当事者が活躍でき、再度、社会に繋がることのできる場とする。</p> <p>地域の施設や住民が絆を深めながら活躍することで、「あらゆる年齢のすべての人々の健康な生活を確保し、福祉を促進する」というSDGsの目標を達成する役割を担い、地域社会との関わりを持つことにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永山南きづな・ほのぼのバザーの企画・会議の実施</li> <li>・認知症、障がい当事者の方の活動の場の提供</li> <li>・開催について地域への周知活動と地域住民の参加促進</li> <li>・地域企業との連携</li> </ul>	<p>令和6年9月20日(金)13:30~15:30、永山住民センターにて、永山南きづな・ほのぼのバザーを開催した。</p> <p>入場受付は行っていないため、詳細な来場者数は把握できていないが、体感100名近くの入場者があったと想定している。</p> <p>認知症当事者、障がい者の方には、当事者活動として商品の販売や赤い羽根共同募金の受付担当をしてもらい、来場者の方との交流や対応をしてもらっている。</p> <p>バザーで売り上げた収入については、参加していただいた当事者の方への給料という形や赤い羽根共同募金へ一部還元をしている。</p> <p>地域企業として、北かり様や男山様から当日の協力や商品の協賛をいただいている。</p> <p>また、明治安田生命様にも協力をいただき、当日、骨密度や血管年齢測定など、各種健康測定ブースを設けている。</p> <p>当事者の方の活躍の場、多世代交流の場として実施ができたと評価している。</p>	50,000	済 49,519 予 0 計 49,519	481

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
8	永山南地域ボランティア養成事業 (永山南きづな連絡協議会)	<p>地域の困り事として、除雪や自宅内のちょっとした作業など様々なものがあるが介護保険サービスでは対応できないことが多く、現状、既存のインフォーマルサービスや個人々の厚意や親切によって対応されている状況にある。</p> <p>しかし、それだけでは対応しきれない部分や担われている方(主に地域役員)の負担ばかりが強くなってしまい、担っていくにも限界がある。</p> <p>今後ますます高齢化が進み、よりインフォーマルサービス等を必要とする方が増えていくことも予想されるため、地域で活動できる方の把握を行い、現役世代や福祉関係機関も巻き込みながら困り事のある地域住民を永山南地域の方で支えられるような体制構築を目指す。</p> <p>まずは、毎年相談が多く課題となっている「除雪」に焦点を当ててボランティア発掘、体制づくりを進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動について関係者にて集まり会議の実施。</li> <li>・除雪活動者と除雪困難者のマッチング</li> </ul>	<p>生活課題である除雪に関するボランティアの発掘を目的に、以前から旭川永嶺高等学校と連携を図ってきた。</p> <p>昨年度より、除雪ボランティアの人数や範囲を広げて行くことも想定し、アウトドア同好会顧問と同好会以外の活動者創出話を行ってきたが、今年度の話し合いとしても、学校全体にボランティア活動者を募るのは現状困難なこともあり、活動の拡大へとは至らなかった。</p> <p>市社協のスノーサポート隊への登録については、個人活動となることから、周知活動は行わせてもらっている。</p> <p>アウトドア同好会自体による除雪活動は今年度も継続の了解が得られたため、マッチングを行い、今年度も除雪・見守り活動を行っている。</p> <p>現在、同好会自体のメンバーが4名程度のため、学校近隣の2世帯を対象に実施している。</p>	30,000	済 0 予 0 計 0	30,000

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出済 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
9	永山魅力発見隊事業 (永山魅力発見隊実行委員会)	<p>まだ知らない永山の魅力を見つけ、多くの人に知ってもらうことを目的に永山地区の4小学校(永山小・永山南小・永山西小・永山東小)の5～6年生を対象とした「永山魅力発見ツアー」を令和6年11月30日(土)に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者24人(永山小11人、永山南小3人、永山西小7人、永山東小3人)</li> <li>・旭川市立大学の学生ボランティア1人参加</li> <li>・旭川農業高校で4グループに分かれ、それぞれ「乳しぼり、バター作り」「サツマイモタルト調理」「木工工作」「ハーバリウム制作」を体験。各活動の企画や参加者への対応などは同高校生徒が中心となって行った。</li> <li>・ケーブルテレビポテトにてツアーの様子が放送された(12月6日)。</li> <li>・ツアーを通じて発見した永山の魅力をチラシ、ポスターにまとめて発信する。</li> </ul>	<p>参加した児童及びその保護者からアンケート調査を実施したところ、「子ども達が当たり前のように過ごしている『旭川市永山』の良い所をもっと伝えたい」「優しく真剣に教えてくれた高校生がいることが魅力」との声が聞かれた。</p> <p>次年度は対象者、訪問施設を変えながら事業を実施予定。</p>	64,000	済 55,621 予 0 計 55,621	8,379
		全実行委員会合計	全実行委員会合計	384,000	済 326,793 予 0 計 326,793	57,207